

第二章 新井家文書

一 元禄八年 百間村新検小帳

(表紙)

「 元禄八年

新検小帳

亥ノ四月日

山の下一 廿九間半 下田七畝拾壹歩

四郎左衛門

同所 一 拾六間 下田六畝拾貳歩

同所 一 九間 下田壹畝廿四歩

堤久保 一 拾貳間 上田七畝拾八歩

小沼 一 廿壹間 下田五畝拾八歩

前田 一 拾七間 下田九畝拾九歩

同所 一 三拾間半 下田八畝四歩

内野 一 廿九間半 中田三畝廿八歩

星谷前 一 四拾三間 上畑壹反廿五歩

同所 一 六間 中畑壹畝拾貳歩

同所 一 七間 中畑壹畝歩

同所 一 五間 六間 中畑七畝歩

同所 一 廿壹間 拾間 下畑七畝歩

同所 一 拾九間 拾貳間 下々畑七畝拾八歩

中坂才 一 六間 廿貳間半 下畑四畝拾五歩

星谷前 一 拾七間 拾貳間 中畑六畝廿四歩

中坂才 一 拾七間 拾貳間 中畑六畝廿四歩

同所 一 三拾八間半 下畑七畝貳歩

同所 一 五間半 下畑七畝貳歩

同所 一 廿四間 下々畑六畝歩

同所 一 七間半 下畑四畝廿八歩

山崎 一 拾八間半 下畑四畝廿八歩

同所 一 八間 下々畑壹畝廿壹歩

十殿 一 八間半 下畑三畝壹歩

十殿 一 拾四間 下畑三畝壹歩

山の下一 八間 下畑三畝壹歩

同所 一 八間 下畑貳畝四歩

同所 一 拾三間半 下畑貳畝四歩

同所 一 拾三間半 下畑壹畝九歩

上中野 一 三拾五間半 下畑八畝廿六步

七間

内野前 一 廿四間 下畑八畝拾貳步

拾間半

上戸野久保ニテ畑七畝廿四步替地相渡し申候

金右衛門  
庄兵衛  
印 印

屋敷ぞへ一 拾五間 上畑九畝拾五步

拾九間

野久保 一 拾三間半 上畑三畝五步

七間

堀川 一 三拾老間 上畑八畝廿四步

八間半

柳ノ下 一 廿間 下畑九畝步

拾三間半

同所 一 廿間半 下畑六畝五步

九間

下中野 一 八間 下畑貳畝廿四步

拾間半

鷹番前 一 五間半 中畑七畝五步

三拾九間

一 拾八間 屋敷七畝六步

拾貳間

新山 一 五間半 下畑八畝八步

四拾五間

上田合七畝拾八步

中田合三畝廿八步

下田合三反八畝廿八步

上畑合三反貳畝七步 七

中畑合老反六畝拾壹步 五

下畑合七反三畝拾四步 三

下々畑合老反七畝七步

田畑屋鋪合老町九反六畝廿九步

内五反拾四步 田方

老町四反六畝拾五步 畑方

石高合八穀三斗五升六合八夕

右之通御水帳之通相違無御座候

元禄十三年 庄ヤ 重右衛門 印

辰ノ二月 組頭 多郎左衛門 印

同 勘左衛門 印

同 次郎右衛門 印

同 隼人 印

同 助右衛門 印

(文書番号 三二〇)

二 文政八年 伝馬雇賃借覚

覚

一金貳兩也

右は当酉年杉戸宿御伝馬雇出シ賃銭之内書面之通り内借申所実正也、然上は当極月  
二至リ候ハ、御村方御伝馬金取立ヲ以元利御引落シ残り御勘定可被下候、為後日証文  
御渡し申所仍て如件

文政八酉年 助郷惣代

四月五日 堤根村

九右衛門<sup>㊦</sup>

百間西原村

四郎左衛門様

七平様

(文書番号 二八〇二)

三 天保五年 百間村年番役出入訴状

乍恐以書付奉願上候

一 御奉所武州埼玉郡百間村下組村役人小前一同相談之上奉申上候は、一体百間村之儀三組と申候は、堀田相模守様御領分松並貞太郎様御知行所当御屋敷様御知行所右御給々御三給様にて百間村と申候、御公儀様御用向御伝馬触継用悪水御普請役様御鷹方御用諸廻状継立御泊り其外郷中自普請人足割触継等三組割合之儀給々名主方にて年々順廻り相勤来り候、且又私共組上組下組之儀は右三組年番向組にて格番二相勤来り候、去ル拾ヶ年以前文政八酉年下組にて相勤、七ヶ年已前文政十一子年上組にて相勤、且又天保貳卯年下組にて相勤、同当年年上組之年番二相当り候二付、当正月朔日例之通り組合年番之儀其御組にて相勤候様下組清兵衛方より書面にて申遣二候処、佐次右衛門方より返書にて申候候は、先志ヶ年下組にて相勤可被成旨申之被越、尚又清兵衛方より其御組にて御勤メ可被下儀申越候て返書も無之書面差被戻候二付、同月十二日下組村役人三人にて佐次右衛門方江罷越右組合年番之儀得二掛合二および候得は各三人にて罷越実意利解被申候ては申訳ケも無之等申なく仕候て、組合年番相勤可申儀御座候も先少し之間相待等候様被申候二付伝居候得ても無沙汰二延し置候間、尚又三月至清兵衛方へ右之趣掛合二および候得は佐次右衛門被申候は頼一札書面入置候ハ、三ヶ月も相勤可申等申一「右様勤役一向不承知之由申募り左候は私共組にて相勤候ては難儀至極仕候、乍去彼是致候上ては御用向御差支相成候間当年是迄上組之分下組にて相勤候得共、以来右様勤役違儀被申候上は御用之儀は勿論、御屋敷様御用向筋も御差支二相成申候間、殊ニ御屋敷様御用向

之儀も高割同様」一日数相懸り候御用向ハ下組へ申付年増之為相勤メ、佐次右衛門儀御用向勤方右順シ平年共御用触継等不仕、勝手儘勤方被致候ては下組勤方相嵩甚難儀仕候二付、以前上組助右衛門下組門右衛門勤役中之通り格番二相勤相互ニ御用向御差支無之様仕度奉存候間、尤上下両組御用向等格番二相勤候ても諸夫錢之儀は上下高割にて取立いたし候間小組にて難儀之筋ハ無之間何卒右願之通り御聞濟被下成、以後御用向御差支無之様被 仰付被下置度乍恐以書付御願奉申上候、右願通り被 仰付被下置候ハ、下組村役人小前一同難有仕合ニ奉存候、以上

天保五年

御知行所

五月

武州埼玉郡

百間下組

百姓代

同

組頭

同

同

御地頭所様

御役所

(文書番号二八〇五)

四 天保十二年 御仕置五人組帳

(表紙)

一 御仕置五人組帳

丑三月 御知行所

百間村下組

条々

一 毎々從 公儀度々出候御法度書面之趣弥以堅相守、御製法之儀不相背候様二小百姓下人迄可申付事

一 五人組之義町場ハ家並在郷ハ最寄次第五軒宛、組合子供并下人地借店借之者二至迄惡事不仕様組中常々無油断可令詮儀、若徒者有之て名主申付をも不用候ハ、可訴出事

一 毎年宗門帳三月迄之内二可差出、若御法度之宗門之者有之ハ可申出、切支丹宗門之義御高札之旨可相守、宗門帳之通り人別念入可相改、宗門渡候て後日抱候下人は寺請状別紙二可取置事

一 五人組帳二押候外別之印形拵置申間敷候若子細有之候て印形替候ハ、名主組頭ハ手代方迄可相断、其外百姓ハ名主江断へし、若断候ハ、早速五人組帳江改候名前江可記事

一 田畑并山林等永代売買御停止候間、若實物二入置候ハ、拾ヶ年を限實物手形名主五人組加判可仕、田畑質入金銀貨候ハ、田畑地面ヲ以地主二為作候て御年貢上納可致事

一 惣て家業を第一二相勤不似合遊芸好、或ハ悪心ヲ以公事ケ間敷儀ヲ進、又は不孝之輩有之ハ不隱置可申出、何事ニよらず神水吞誓調を書申合候て一身同心致シ、徒党ケ間敷儀仕へからざる事

一 百姓衣類之儀結講成物を着へからず、名主ハ絹袖布木綿妻子ニ是を着へし、平百姓ハ布木綿より外ハ着からず綸子紗綾縮緬之類ハ襟帯等ニも致へからず、然共百姓ニも身上宜敷者ハ手代共迄断ヲ立差図請絹袖着へく事

一 附リ男女乗物乗鞍馬等二乗べからず、惣て家作等目立候普請奢ケ間敷義仕間敷事一 智取嫁取之義奢ケ間敷義無之様分限輕く仕へく候人大勢集大酒吞へからず、所々より数家之祝儀新宅之祝儀披露 一 初産之祝儀不相応之義仕候義停止たるへく分限

相応 一 二輕く仕へし、并葬礼之禁酒停止之事 一 捨子堅仕へからず若他所より捨置候ハ、村中養育致シ早速可致注進事

一 獵師之外鳥獸一切不可取之、獵師たり共鶴白鳥ハ勿論大鳥之類一切取申間敷、尤他所より持來候共買取商売ニ仕間敷事 附リ飼鳥之類鶴鴨家鴨之外飼鳥仕間敷事 一 捨馬之義御高札之通り堅相守へし、他所より捨牛馬并放牛馬当村江來候ハ、見出し

次第名主組頭村中立会詮儀致シ、持主知候ハ、其村方名主并牛馬主より手形取相返し其旨早速可致注進事

一 新神仏致開帳候ハ、可致注進当村二神仏他所江当分相写開帳仕候ハ、可致注進、又ハ他所より神轡を送り來候ハ、不可請村二少之間も差置間敷事

一 他所之者当村ニ有付致住居度願候ハ、其者ニ出所家職之様子聞届、出所之向江断致シ懺成証文手形ヲ取其れ宗門相改差置へし、店借等之者江貸置候共右同様ニ可相心得事

附リ浪人ハ先主之構無之旨証文并宗門寺請状書付取可差添可請差図事

一 百姓田畑子孫二分可取候共老人前高五石二内二訳ケへからず、小高之百姓ハ子孫二訳ケ為取間敷、若子細候て訳ケ候儀ニ候ハ、差図ヲ請へし、惣て新規二百姓有付候ハ、可致注進、跡式之義ハ存生之内名主組頭立会書付差出入無之可心掛事

一 殺害人或ハ致自害候者或ハ倒者有之ハ早速可訴出事、盜賊喧嘩手負之者惣て不慮成義出來候ハ、右同様ニ相心得無油断可致注進事

一 御用人馬不及申本海道にてハ無之候共往來之者口賃馬人足不限昼夜無滞可差出事 一 諸作第一種を撰候て蒔耕作可念入、荒作ニ致候者有之ハ急度可致詮儀、独身之百姓長煩又ハ幼少にて親口離耕作難義之者有之ハ、名主組頭立会村中助合田畑不荒様ニ可致事

一 博奕惣て賭之勝負或ハ商ひ等ニならひ博奕ニ似たる義何ニても一切仕へからず、若相背之輩有之欵又ハ右之宿致候者有之ハ早速可訴事

一 御年貢皆済無之以前穀物不可出之先米納候數ヲ積リ納米摺上米拵置次米を売可申事 右之条々堅相守若相背之輩有之ハ可為曲事、此帳毎年正月五月九月十一月老ヶ年ニ四度村中大小之百姓寄合慥ニ為申聞、常々此趣合点仕罷有候様念入可申付者也

元文貳年

巳三月

前書之御ヶ条奉拜見御知行村中大小之百姓水吞ニ至迄老人も不洩様諒聞、則名主方ニ写申候間被仰渡之通壹ヶ条宛為致合点急度相守可申候、若背候者御座候ハ、何様之曲事被 仰付候、為其五人組合連判仕候て差上申候、以上

御知行所

天保十二年

武州埼玉郡

三月

百間村下組

五人組

六右衛門印  
市左衛門印  
才兵衛印  
安兵衛印  
伝右衛門印  
作兵衛印

五人組

伊右衛門印  
喜左衛門印  
李左衛門印  
仁兵衛印  
徳右衛門印

五人組

源兵衛印  
平左衛門印  
又兵衛印  
孫四郎印  
六左衛門印

五人組

武兵衛印  
惣右衛門印  
佐五兵衛印  
馬之助印  
五兵衛印

五人組

利兵衛印  
丈左衛門印

吉平印

孫左衛門印

新八印

庄兵衛印

五人組

次兵衛印  
喜兵衛印  
又兵衛印  
甚兵衛印  
作右衛門印

五人組

門右衛門印  
孫右衛門印  
平右衛門印  
甚兵衛印  
庄蔵印

五人組

太郎左衛門印  
七兵衛印  
六兵衛印  
浄玄  
平六

清五郎印

五人組

伊右衛門印  
忠兵衛印  
浅右衛門印  
源平衛印  
半右衛門印

要蔵印

忠右衛門印

五人組

友八印

吉郎兵衛印

次郎左衛門印

孫右衛門印

藤四郎印

勇蔵印

源五兵衛印

組頭

四郎左衛門印

同

清兵衛印

名主兼組頭

七平印

御地頭所様

御役所

(文書番号 三三六)

差上申一札之事

一前々從御公儀様被 仰出候通鶴雁鴨は不及申ニ、小鳥等ニ至迄殺生人無之様村中之者共江急度申付為相守可申候、若殺生人御見付被成候ハ、何分も被 仰出可被成候、尤他所より参候得は捕置早速御届可仕候

一鶴雁鴨之類追立申間敷候、勿論耕地江鳥追小屋を仕立道具等為持追立申間敷候、若相背追立候所御見付被成候ハ、何分ニも被 仰立可被成候、且又落鳥病鳥御座候ハ、早速御届ケ可仕候

一魚殺生之儀、当八月より来春御用不相濟内は村中有来候小池小沼用悪水百姓困堀等迄札建置急度殺生為仕間敷候、若相背候は御座候ハ、何分ニも被仰立可被成候、其節御非分とは申間敷候、自然他所より参候ハ、留置早速御届ケ可仕候

一耕地ニ殺生道具御座候ハ、地所相改地元村江引受何分御吟味請可申候  
一御鷹御休被遊候ハ、御鷹番大切ニ可仕候、尤犬猫等有之候ハ、早速繫置可申候  
一御鷹御宿触当村江来候ハ、御性名書記早速御届ケ可仕候、尤村境江罷出御旅宿所江御案内可仕候、且又犬猫等飼置候ハ、早速繫置可申候

一水鳥類惣て御鷹御捉飼之諸鳥并小鳥共飼鳥決て仕間敷候  
一水鳥類売買人村内ニ決て無之様吟味可仕候、勿論外村ニ有之由見聞及候共早速御届ケ可仕候、并魚売買人等無心元包物等も在之候ハ、途中ニても御改可被成候、其節聊御非分とは申間敷候

一当村四季打鉄砲場ニは無御座候  
一八月より来ル春御鷹御用不相濟内は困堀又は坑樋泥濘等無據普請仕候場所御座候ハ、御届ケ御差函請可申候、縦御普請所ニ御座候共御届ケ可仕候

一田船之儀、当八月より来春御鷹御用不相濟内は□□江老艘も差置申間鋪候、縦川通渡場ニ候共渡舟斗差置外小舟差置申間敷候

一芝居之類惣て人寄仕候儀、当八月より春御用不相濟内は一切致間敷候、若神事祭祀等ニて無據義ニ御座候ハ、御届ケ仕御差函請可申候

一当村ニ主無之犬一切差置申間敷候、若相背御鷹御捉飼妨ニ相成候ハ、村方越度ニ被仰立可被成候

五 天保十四年 御鷹御捉飼場取締請書

(表紙)

一 天保十四卯年

御鷹御捉飼場締御請書

八月

武州幸手領

樋籠村

一

一当八月より春御用不相済内は村内にて花火一切為致申間敷、尤堀通并耕地にて焚火為致申間敷候

一毎度御鷹匠様方御捉飼場締二御越被成候節被 仰渡候儀之儀、逸々小前百姓江為申聞常々心掛相背申間敷候、尤仮渡橋之義は御触次第早速丈夫二掛渡目印之杭建置可申候、并堀通下草苧拵余木伐透堀左右田場水切落可申候

一戸田五介様より被遊御渡候御鷹方御焼印并餌鳥合判大切二可仕候、尤不存御方御出候ハ合判仕若相違も存之候ハ留置早速御届可仕候、餌差衆之儀も右同断相心得可申候

一餌差衆たりといふ共御鷹御捉飼之諸鳥江差障申候ハ其所江留置早速御届ケ可仕候事

一御鷹宿被 仰付候節は火元念人大切二可仕候事

右箇条之趣大切二相守可申旨被 仰聞承知仕候、然ル上は村中大小百姓水吞下人等迄不洩様為申聞聊不埒無之様急度為相守可申候、尤常々無油断吟味可仕候、依之名主年寄百姓代連印御請一札仍て如件

天保十四卯年八月

平岡文次郎御代宣所

武州葛飾郡

樋籠村

名主 又兵衛

年寄 又左衛門

百姓代 忠次郎

戸田五介様御組

常御捉飼場御野廻役

関口金兵衛 殿

(裏表紙)

村山民蔵

⑨ ⑨

村山民蔵

## 六 弘化元年 百間西原組伝馬出勤議定書

(表紙)

一 百間村西原両組議定連印帳

村々御伝馬出勤議定取極之事

御伝馬杉戸定助郷二有之処是迄人馬雇替勤にて御継立仕候処、追々雇替賃錢相高村方一同困窮二付正人馬にて相勤度旨小前一同願二付、左二取極申候

一御伝馬正人馬勤之儀は村方札元相立小前高之高下を見合セ当触致候、尤多人馬触当之節は無高小家たりとも相勤可申筈

一飯売女買候はは為過怠錢寄賣文宛差出し可申候筈、是ハ正人馬出勤仕候得は大切之御伝馬継立之儀二付老人子供にては難相勤候間、壮年之は差出し候二付心得違いたし飯売女買御伝馬継立方差支二相成候てハ不相済儀二付此段取極申候

一米麦雜穀薪其外せんさいもの并酒酢醬油荒物類等二至迄一切売買不致候筈、是ハ杉戸宿御伝馬当触不正出入申立宿役人三人相手取以來御伝馬継立方正路二いたし度、殊二相談之上願惣代相頼差出候処宿役人江相掛候出入を店借地借御伝馬筋二も不抱、商売人共二至迄右出入雑用相掛ケ積金を以出入根継いたし、助郷村々より正路

之儀申立候共年限永く相掛り候得は諸雑用にて終二は助郷村々之は仕負二相成候儀も可有之間雑用之儀は日掛積金等いたし候ハ差支無之様仕候間心永く出入可被致様可申候、其外宿役人共江荷担致候二付村々において右等之は共江売買利徳為得候ては出入一件濟方之妨二も相成候、村々示談之上如此取極申候、尤不正出入濟方相成候ハ是迄之通可致筈

一杉戸宿より糶売商人共村々江多人数差入候は御改革御趣意二も相振、前日断之儀二付以來は不見遁其村々ニ留置、組合村々江及相談其筋様江可被仰出候筈

一 村山民蔵

⑨ ⑨

村山民蔵

右箇条之趣村々小前一同相談之上取極候間以來無違變急度相守可申候、若小前之は心得違致議定相破候ハ、過念錢老貫文村役人江立替差出し可申筈、依之議定連印取極申処如件

弘化元辰年極月

孫右衛門  
長藏 印  
市郎左衛門 印  
重右衛門 印  
清五郎  
伊兵衛 印  
多兵衛 印  
市平 印  
太右衛門 印  
孫兵衛 印  
善兵衛  
忠左衛門 印  
藤吉  
七郎兵衛  
七郎右衛門 印  
政右衛門 印  
市郎兵衛  
助右衛門  
後家 印  
金藏 印  
多郎左衛門 印  
七兵衛 印  
甚兵衛 印  
庄藏

浄玄  
平右衛門 印  
清兵衛 印  
門之助 印  
勘左衛門  
六兵衛 印  
甚兵衛 印  
喜兵衛 印  
又兵衛 印  
作右衛門 印  
治兵衛 印  
半兵衛 印  
安兵衛 印  
六右衛門 印  
市左衛門 印  
作兵衛  
傳右衛門 印  
伊右衛門 印  
李左衛門 印  
徳右衛門 印  
金藏 印  
喜左衛門 印  
源兵衛 印  
仁兵衛  
平左衛門  
又兵衛 印  
六左衛門 印  
孫四郎 印  
佐五兵衛 印



乍恐以書付御届奉申上候

御知行所武州埼玉郡百間村向組村役人小前一同奉申上候、当五月下旬より度々大雨打  
続地水相湛田方水難凌兼候ニ付昼夜水防精々仕居候処、六月廿九日利根川通り上川俣  
村地内押切羽生領騎西領江押出当領内村々罷出堤堀ニ相防候得共、稀洪水ニて当七月  
二日田畑一面ニ冠ニ相成、居宅床上迄押上リ田畑作物等種を失ひ候程之始末難洪仕候  
間、此段乍恐以書付御届奉申上候、以上

弘化三年  
七月

百間村

上組百姓代

李右衛門

組頭

庄右衛門

名主

佐次右衛門

下組百姓代

喜左衛門

組頭

治右衛門

同

七平

同

四郎左衛門

御知行所

御地頭所様

御役所

(文書番号 三三〇)

- 馬之助
- 五兵衛
- 利兵衛
- 新八
- 丈左衛門
- 吉平
- 孫左衛門
- 庄兵衛
- 浅右衛門
- 忠右衛門
- 源兵衛
- 半右衛門
- 右兵衛
- 治郎左衛門
- 吉郎兵衛
- 伊右衛門
- 勇藏
- 友人
- 源五兵衛
- 要藏
- 孫右衛門
- 正福房
- 姫宮坊
- 武兵衛

八 弘化四年 伝馬休役積金議定書

(表紙)

一 弘化四年

議定一札

未八月 駒崎村

上組 一

取極由議定一札之事

当村之儀は中山道上尾宿御伝馬定助郷相勤来り候処、追々村方困窮ニ付先達て御伝馬休役奉願上候処、当未五月より中拾ヶ年皆御免除被仰付難有仕合ニ奉存候、右ニ付御地頭所様より蒙厚思召ヲ奉承伏候ニ付、惣百姓一同相談之上、持地壹反歩ニ付、年々銀式匆宛三季ニ割合取立積金致、夫々持高二応し出石之者江預ケ置、御免除年季明ニ相成候上は御伝馬雇賃之足り合ニいたし可申筈、依之一同取極メ議定連印為取替致置候処如件

森川伊豆守知行所

武州埼玉郡

駒崎村

兵藏	印
金左衛門	印
宇八	印
孫市	印
政五郎	印
藤吉	印
倉吉	印
ちよ	印
孫重郎	印

文太郎 印

浅右衛門 印

定吉 印

百姓代

駒吉 印

組頭

武兵衛 印

名主

八郎兵衛 印

同村下組

伊三郎 印

伝藏 印

重五郎 印

惣兵衛 印

吉藏 印

惣左衛門 印

弥右衛門 印

吉右衛門 印

吉太郎 印

弥太郎 印

喜平 印

助右衛門 印

七五郎 印

幸藏 印

吉之助 印

喜惣次 印

勇吉 印

清左衛門 印

富藏 印

作右衛門 印  
茂右衛門 印  
長藏 印

羽貫村

源八 印  
与兵衛 印

伊清五郎 印

源六 印

中荻村

源左衛門 印

小左衛門 印

大針村

市藏 印

金左衛門 印

由右衛門 印

上閨戸村

宇平 印

紋左衛門 印

又吉 印

貝塚村

徳左衛門 印

兵右衛門 印

茂平 印

次郎兵衛 印

清左衛門 印

弘化四年末月八月  
前書之通り議定連印仕候処相違無御座候間、依之連印帳奉差上候、以上

駒崎村

名主

八郎兵衛 印

百間村

組頭

四郎左衛門 印

名主

佐治右衛門 印

御地頭所様

御役所

(文書番号 三三三四)

九 嘉永四年 百間村外三か村秣場地分議定書

対談申一札之事

一百間村同西原組西村金谷原組右四ヶ村入会之秣野場有之候処、取急キ刈取候もの之出精ニ斗リ相成其俣差置候ては何之村益ニも不相成、此度村々秣野錢納永ニ准シ地分ケ申度村役人小前一同相談仕候得共、金谷原組之義は最寄故刈取申度旨夫々世話人相頼双方形能ク勝手合ニ相成候様取斗被成候ニ付、村々一同相談之上金谷原組江年々刈取可申候様相任申候、右趣意金として反ニ付金貳両之振合ヲ以御村々江当村より差出シ相渡申候、然ル上は秣野錢納永之義は已後当村より御村々江差出年々御上納可仕候、且生立候株木ハ当村にて已来共伐取申候、其節ニ至り候て違儀申間敷筈、若又刈取度村方有之候節ハ右差出し候金不残返済被成候ハ々刈取被成候、世話人立入前書之通一同取極候上は対談違儀申間敷候、依て一札入置申処如件  
嘉永四年八月

名主

武左衛門

組頭

太左衛門

一〇 嘉永六年 諸職人手間賃請印帳

(表紙)

「 諸職人手間賃請印帳 」

一札之事

百間村  
西原組  
西村  
御役人中

百姓代  
七平

字逆井海老 原秣野地

一反別四反六畝拾三步

右之通其村江相訳申候反別二応シ夫々前書之趣意金当組より差出シ候ニ付年々私共組江秣草刈取候様為相任、本文之通り対談致候所相違無御座候、依之継添連印之一札差出シ申処如件

嘉永四亥年四月

百間村之内

金谷原組

名主

武左衛門<sup>印</sup>

組頭

太左衛門<sup>印</sup>

百姓代

七平<sup>印</sup>

東村

世話人

萬之丞<sup>印</sup>

同村之内

西原組

御役人中

(文書番号 二八七七)

一經師

但金卷分二付七人

請取事

是ハ唐臼次第寄極上拵式百四拾八文新規三百文迄、尤板齒代之義ハ別段書立ヲ可

一唐臼

但古台用卷組二付錢式百貳拾四文  
新規 同式百四拾八文

一唐臼

但古台用卷組二付錢式百貳拾四文

一唐臼

是ハ前同断出精ニより金卷分二付七人迄、尤糸代之義ハ別紙書上ヲ可請取事

一唐臼

但金卷分二付八人

一瓦師石工

但金卷分二付五人

一屋根葺

但卷人二付錢式百文

一普請手伝

但金卷分二付拾人

一杓取車力仕事師

但金卷分二付九人

一左官

但金卷分二付七人

間可相改事

是ハ手職ニ随ひ弟子等之手間賃段々ニ引下ケ候はいつれ之職人ニても同断之事ニ候

桶屋黒鋏

但金卷分二付八人

一大工木挽建具屋

聞候義相守手間賃左之通り

東御取締御出役様方より御廻達逐一被 仰渡諸職人卷人別ニ御取調御座候所、前々被

諸職人太子講と唱打寄酒食等致シテハ手間賃直上ケ之内評儀致不宣候ニ付右打寄候儀

相止取極候手間賃引上ケ候義不相成段文政度已来再応御達も有之夫々請書差出置然ル

処近頃御趣意相弛ミ候等と心得違ニ候打寄酒喰之上内評等致し中ニは頭取世話人等之

名目を付手間賃直上ケ致シ候は有之趣御聽込今般 御奉行所より御沙汰之趣ヲ以聞

一綿打賃

但荒打百匁ニ付錢貳拾八文

渡打同 同三拾貳文

中綿類其外ハ右ニ准シ直下ケ可致事

一日雇

但男百廿四文

女八拾文

是ハ年中之日雇ハ右極より引下ケ相對之事

且四五六右三ヶ月は繁多之時節、別て骨折候義ニ付働ニより見計事

一按摩療治

但上下三拾貳文

右手間賃ニて相稼来リ候間無違失相守可申候、一一等請取候義決て仕間敷候、若

勝手儘直上ケ致候もの御座候ハ、何様之御取斗請候ても聊申分無御座候、依之一札

差上申処如件

堀田備中守領分

森川伊豆守知行所

松波恒太郎

武州埼玉郡百間村

大工

清吉

同

佐五兵衛

同

忠右衛門

木挽

久次郎

同

伊右衛門

桶屋

巳之助

杣取

忠六

同

六郎左衛門

同

倉藏

同

又兵衛

同

孫左衛門

屋根葺

磯吉

同

久七

同

庄藏

同

惣右衛門

綿打

増太郎

同

清藏

同

本藏

同

庄藏

同

勘五郎

同

縫之助

同

龜二郎

同 庄助

同 喜兵衛

同 孫右衛門

同 満右衛門

仕事師 政右衛門

黒鍬 善二郎

前書村内諸職人耆人別ニ取調候処勝手儘ニ直上ケ致候は無御座候、乍併中ニは心得違  
ヲ以太子講相催頭取世話人名前差出し候はも有之哉ニ付、以後急度為差止可申は勿論  
今般 御奉行所より御沙汰之趣閑東御取締御出役様方より御廻達ヲ以嚴重ニ被 仰  
渡承知奉畏請印差上候間、若心得違致前文ニ相振候もの御座候ハ、村役人より及  
察斗ニ其上も不取用候ハ、早速其段可申上候、依之奥印ヲ以申上候、以上

嘉永六丑年

五月日

前書被 仰渡御請印之趣小前一同得と合意致候様相渡置申候、以上

名主

四郎左衛門 印

組頭

七平 印

同

治左衛門 印

(文書番号 三〇四)

一一 安政二年 御仕置五人組帳

(表紙)

一 安政二年

御仕置五人組帳 扣

卯三月

百間村下組

条々

一 前々從 公儀度々被出候御法度書面之趣弥以堅相守、御制法之儀相守候様小百姓下  
人ニ至迄可申付候事

一 五人組之儀町場は家並在郷は最寄次第五軒ツノ組合、子供并下人地借店借之者迄悪  
事不仕様組中常々無油断可詮議、若徒者有之名主申付をも不用候ハ、可訴出事

一 毎年宗門帳三月迄之内可差出、若御法度之宗門之者有之ハ可申出、切支丹宗門之儀  
御高札之旨可相守宗門帳之通り人別念入可相改、宗門渡候て後日ニ抱候下人は寺請  
状別紙ニ可取置事

一 五人組帳江押置候外別之印形拵置申間敷候若子細有之候て印形替候ハ、名主組頭は  
手代方迄可相断、其外百姓は名主江可断、若断候ハ、早速五人組帳江改候名前も可  
記事

一 田畑并山林等永代売買御停止ニ候間若質物ニ入置候ハ、拾ケ年限り質物手形名主五  
人組加判可仕、田畑質ニ入置金銀貸候ハ、田畑地面を地主ニ為作候間御年貢上納可  
致事

一 惣て家業を第一ニ相勤不似合遊芸好或ハ悪心を以公事ケ間鋪儀を進み又ハ不孝之輩  
有之ハ不隱置可申出、何事ニよらず神水を飲み誓詞を書申合候て一身同意いたし徒  
党ケ間敷儀仕べからざる事

一 百姓衣類之儀結構成ものを着すべからず、名主絹細布木綿妻子是を着すべし、平百  
姓は布木綿より外は着すべからず、縺子紗綾縮緬之類ハ襟帯等ニもいたすべからず、

然れども身上宜敷者ハ手代方迄断を立差図を請絹細着すべき事

附男女乗物乗鞍馬等二乗べからず惣て家作目立候普請奢ケ間敷儀仕間敷事

一 智取嫁取之儀奢ケ間敷儀無之様分限より軽く仕べく候、人大勢集メ大酒を吞べからず、所々より数家祝儀新宅祝儀披露免初産之祝儀不相応之仕候義停止たるべく分限相心内証軽く可仕、并葬礼之野酒停止之事

一 捨子堅仕べからず、若他所より拾置候ハ、村中にて養育いたし早速可致注進事

一 獵師之外鳥獸一切取べからず、獵師たりとも鷹白鳥は勿論大鳥之類は一切取申間敷候、犬他所より持来候共買取商売ニ仕間敷候事

附飼鳥之類鴉鷄家鴨之外飼鳥ニ仕間敷事

一 捨馬之儀は御高札之通り堅相守べし、他所より捨牛馬并放牛馬当村江来候ハ、見出し次第名主組頭村中立会詮儀いたし、持主知れ候ハ、其村名主并牛馬主より手形取置相返し其旨早速注進可致事

一 新神仏致開帳候ハ、可致注進当村之神仏他所江当分遷し開帳いたし候ハ、可及注進、又は他所より神輿を送り来候ハ、不可請村内ニ少之間も差置間敷事

一 他所之者当村ニ有付致住居度願候ハ、其者出生家業口様子を聞届ケ、出生之向江断を致シ慥成証文手形を取其上宗門相改メ差置、店借等差置等とも右同様に可相心得事

附浪人ハ先主之構無之旨証文并宗門寺請状書付取之差添可差図事

一 百姓田畑子孫二分爲取候共老人前高五石より内ニ訳べからず、小高之百姓は子孫二分爲間敷、若子細有之候て分候儀ニ候ハ、差図を請べし、惣て新規二百姓有付候ハ、可致注進、跡式之儀は存生之内名主組頭立会書付取之出入無之様可心懸事

一 殺害人或致自害候もの或は倒者有之は早速可訴出事、盜賊喧嘩手負之もの惣て不審之儀出来候ハ、右同様ニ相心得無油断可致注進事

一 御用人馬ハ不及申ニ本海道ニては無之候共往来之者駄賃馬人足ニ不限昼夜無滞可差出申事

一 諸作第一種を撰候て蒔耕可念入荒地候者有之ハ急度詮儀可致、独身之百姓長煩又は幼少ニて親に離れ耕作難儀之者有之名主組頭立会村中助合田畑荒さる様可致事

一 博奕惣て賭之諸勝負或は商ひ等ニなぞらひ博奕ニ似たる儀何ニても一切仕間敷、若相背之輩有之哉又ハ右之宿致候者有之は早速可訴出事

一 御年貢皆済無之以前穀物不可出之、先米納候数を積り納米種上来拵置次米を売可申事

右之条々堅相守若相背者有之ハ可爲曲事、此帳毎年正月五月九月十一月一ケ年ニ四度ツ、村中大小之百姓寄合慥ニ爲申聞常々此趣合点仕罷在候様念入可付者也

一 前書之通り御箇条奉拝見御知し所所村中大小之百姓水吞ニ至迄一人も不洩様読聞せ則名主方へ写置申候間、被仰渡之通り一ケ条ツ、致合点急度相守可申候、若相背候者御座候ハ、何様之曲事にも可被 仰付候、爲其五人組合連判仕奉差上候、以上

(中略)

源五兵衛印

友八印

吉郎兵衛印

治郎左衛門印

孫右衛門印

従跡組合持

藤四郎印

勇蔵印

組頭

治右衛門印

同

七平印

名主

四郎左衛門印

御地頭所様

御役所

一二 安政四年 百間西原村新田破免檢見願

明治十二年十一月

戸長

小嶋弥三郎 ④

(文書番号 三二八四)

乍恐以書付奉願候

当御支配所武州埼玉郡午高入百間西原村新田名主組頭百姓代一同奉申上候、当御新田之儀は、御定免場ニ御座候得共当田方之儀は植付後より度々大雨ニて稻草水底ニ相成居水腐仕候間、御定免年季中所御檢見奉願上候は奉恐入候得共無扨前書之通ニ付当一ヶ年御檢見入奉願上候間、何卒格別之以御慈悲御檢見入被下成置度奉願上候、右願之通り、仰付被下置候ハ、一同相助幾重ニも難有仕合ニ奉存候、以上

武州埼玉郡

午高入

百間西原村新田

百姓代

七良右衛門

組頭

源次郎

名主

四良左衛門

(文書番号 二〇九〇)

一三 明治十二年 村會議員當選狀

百間西原組九番地

新井四郎左衛門

右百間西原組公衆之投票ニ依村會議員之撰ニ當、則明治十二年十一月より明治十六年十月迄滿四ヶ年間議員之任を尽し誠意を以衆議ニ背かさらん事を冀望す、仍當撰狀如件